

## 第一回ゴマ分科会 議事録

1. 日時：2019年11月15日（金）10:00～12:30
2. 会場：JICA 本部 113
3. 参加者：約 80 名（TV 会議による出席者含む）
4. TV 接続先：JICA 横浜、九州

=====  
【概要】

### 1. 開会挨拶

冒頭、JICA 農村開発部牧野部長より、第一回ゴマ分科会の開会挨拶として、分科会の背景説明、および本分科会への期待が述べられた。

### 2. ゴマ関連協力活動展開現況

- 議題 1. JICA 農村開発部野口課長より、ブルキナファソ国「ゴマ生産支援プロジェクト」終了時評価報告があった。今後の中核農家育成計画や残留農薬に関するサンプル調査状況について紹介された。
- 議題 2. 富山大学 山本講師より、ミャンマー国黒ゴマ種子に関する活動報告として、黒ゴマ種子の純化に向けた活動状況が共有された。
- 議題 3. 公益社団法人 国際農林業協働協会（JAICAF）西野様より、ミャンマー産ゴマの品質改善に向けた取り組みとして、農林水産省補助事業に関する報告があった。
- 議題 4. パラグアイ国小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクトチーフアドバイザー 滝本様より、プロジェクト紹介動画の放映および、残留農薬対策の戦略と農薬使用実態調査結果が報告された。
- 議題 5. カタギ食品株式会社 高田取締役より、残留農薬の基準値変更に対する取組状況、目指すべき方向性、および JICA への期待について説明があった。

### <質疑応答>

Q 1. 議題 3 について。ミャンマーの現地を回ると黒ゴマで品質の良いものが確かにあるが、良いものと悪いものが混在している。ミャンマーの黒ゴマの品質が日本では評価が低い要因だと思われる。集荷場で、適切に分類してもらうための指導をしてもらいたい。

A 1. 現場の調査はこれから。今後の活動では、ミャンマーでは GAP 認証を政府が押し進めているため、これをゴマにもうまく活用していきたい。

Q 2. 議題 4 について。Q(九州センター):パラグアイで実施されている民間連携事業との連携はあるか？

A 2. 現時点では連携無し。本プロジェクトはゴマの安全性向上に注力しており、一方で民間連携事業は国内のゴマ消費を促進する活動であった。

Q 3. 議題 4 について。イミダクロプリドの試験結果に関して、播種を基準として何日前までの農薬使用であれば問題ないか、という基準で試験を実施されていたが、開花時期をもう一つの基準として合わせて記録してはどうか。

A 3. 現状、ざっくりと開花後は農薬を使用してはいけないとしているが、アドバイスを今後を活かしたい。

### 3. パネルディスカッション「安定的なゴマの生産・供給に向けた産官学の役割および連携の可能性について」

パネルディスカッションでは、モデレーターの JICA 農村開発部伊藤次長の進行により、各有識者より、生産拡大と品質向上に向けた取組、課題および今後への期待についてお話しいただいた。

#### (1) 生産量の拡大に関する、途上国の現場における課題と取り組み課題について

カタギ食品株式会社 高田取締役:

- ・ ゴマ農家の作物選定・ゴマを生産する動機が消去法によるものであることが多い。ゴマ農家の低いモチベーションや、作物としての単収の低さが問題である。作物の単収を増やすような日本の技術を展開できればと考える。

富山大学 山本講師

- ・ 単収を増加させる方法としては、多収量の品種の導入と、品種に対する適切な栽培方法の実施が挙げられる。品種ごとの栽培方法について試験を通して今後も調査する必要がある。

名城大学 道山教授 (フロアより)

- ・ ゴマは環境条件により収量が大きく変化する。特に、日照時間によって開花時間が大きく変化する事がわかっている。日照時間を考慮し、種を蒔く時期を検討することが最も重要であり、次に重要なのが肥料。気候に合った栽植密度について

も考慮する必要がある。

#### 滝本チーフアドバイザー

- ・ パラグアイの作付面積の推移のご紹介。
- ・ 作付面積は、政府がゴマを重要視しバックアップする政策をとっているかに大きな影響を受けていると思われる。ゴマ栽培を行う小規模農家は作付時には人を雇い、簡単な機械を借りるため、大きな額ではないが金融機関にお金を借り、収穫時に返す。不作の年には返済ができず、金融機関がゴマ農家にはお金を貸さなくなったため、結果としてその翌年度の作付面積は一気に 1/3 まで落ち込んだ。
- ・ 今年は大統領が生産現場 2 か所へ足を運び、ゴマ農家の激励をした。こうしたことでもゴマ生産量の増加は見込める。

#### 九鬼産業 三宅部長

- ・ 三重県で進めているゴマの機械化について紹介。
- ・ 三重県では水田でのゴマ栽培を実施し、病気に強い品種や対湿害性の高い品種について調査している。日本の場合台風の影響を受けやすいこともあり、対倒伏性についても検討している。

#### 伊藤忠商事 鹿児島氏

- ・ (今後どういった国・地域での生産拡大を期待するか) 輸入国・輸入量としては、中国が大きく、中国が輸入しているスーダン、エチオピア等の生産量が増えることを期待。現在は政情不安、為替の問題等もあるが、中国の通関統計を見るとかなり上位に入っている。

## (2) 品質向上に関する取組状況、課題、JICA への期待について

#### 滝本チーフアドバイザー

- ・ パラグアイでは 2016 年 4 月から、コンテナごとにゴマ残留農薬の検査をしなければ日本に輸出できない仕組みを導入した。出す段階で徹底的に国の機関が検査できるよう、分析機器や分析官の能力向上といった支援を行っている。途上国でこれだけ検査をしているという取り組みを消費者含め国民に広く周知し、途上国の努力に対し正当な評価、信頼してもらいたい。

#### 九鬼産業 三宅部長

- ・ 油用のゴマについては、酸価の問題もあり品質をシビアに見ている。
- ・ 実際に生産地で使用されている農薬の種類等のデータが集まれば管理しやすく

なると期待。日本ではゴマに使用できる農薬の登録は少ないのが現状だが、農薬の最低限の使用は必要不可欠であり、日本の基準内に収まるように、農家への用法・用量の指導を引き続き進めていただきたい。

#### カタギ食品 高田取締役

- ・ パラグアイのような事例を進めてほしい。残留農薬の問題は重要ではあるが、メジャークroppでは整数で基準値が与えられている中で、ゴマは 0.01ppm の世界で労力を使っている。早くグルーピングにしてほしい。
- ・ 品質について、農薬だけでなく食味の良いゴマ、オイル含有率等、ゴマの世界が変わるようなことを期待したい。JICA にはその道案内を期待したい。

#### 伊藤忠商事 鹿児島氏

- ・ 商社で抱えている問題としては、燻蒸が必要な貨物が増えていることが挙げられる。理由としては、サプライヤーが燻蒸剤の使い方を理解していない。JICA への期待としては、栽培の行動指針やフローチャートがあれば、サプライヤーに問題があった際に TO DO に落とし込んで提示できるので有難い。
- 最後に、モデレーターの JICA 伊藤次長より、生産拡大については、農家のインセンティブを作るような取り組みも必要であること、また品質向上に関しては、インポートトレランスはパラグアイを先例として途上国で、国際協力で取り組めることのひとつであること、さらに種子選定と食味試験に関しても、今後の産官学連携で取り組める課題であることを再認識するとともに、分科会参加者には引き続きこの議論への継続的な参加を期待するとして締め括られた。

以上